平成29年度第３回岩手県自然・鳥獣部会　会議録

（開催日時）平成30年２月６日（火）　15：20～16：10
（開催場所）盛岡市総合福祉センター　講堂

１　開会
２　あいさつ
３　議事
　ツキノワグマの狩猟期間の延長について（報告）
４　その他
５　閉会

（出席委員）
　青井俊樹委員、東淳樹委員、菅野範正委員、渋谷晃太郎委員、鈴木まほろ委員、鷹觜紅子委員、松坂育子委員
（欠席委員）
　伊藤英之委員、中村正委員、平野拓委員

議事

ツキノワグマの狩猟期間の延長について（報告）

○青井部会長
　本日の議題は、ツキノワグマの狩猟期間に関する報告事項１件となっております。
　それでは、「ツキノワグマの狩猟期間の延長について」事務局から説明をお願いします。

○事務局
　【資料１により説明】

○青井部会長
　ありがとうございます。それでは、ただ今説明のありました、ツキノワグマの狩猟期間の延長について、ご質問、ご意見等がありましたらお願いします。

○鈴木委員

質問が３つございます。一つは、狩猟期間を前倒しするとのことですが、狙いとしては、全体の捕獲数を増やすことではなく、クマの学習効果を狙うという理解でよろしいでしょうか。

もう一つは、平成24年度以降、捕獲数が多いまま推移しているようですが、ツキノワグマ管理検討委員会委員の皆様の見解として、個体群の安定的な維持には問題ないレベルであるということでよろしいでしょうか。

最後に、春季捕獲を平成25年度から開始していますが、春季捕獲の狙いと、その狙い通りの効果を発揮しているかどうか、以上３点をお聞きしたいです。

○事務局

前倒しにつきましては、そのとおり学習効果が一番の狙いです。

県では、毎年次のクマの捕獲状況をまとめ、上限を超えないように捕獲数を設定しております。捕獲年次は狩猟期を基準にし、狩猟による捕獲数によって有害の捕獲数を調整するという方法をとっております。したがって、狩猟期間を前倒ししたからといって、上限が上がるわけではありませんので、学習効果ということで考えております。

また、安定的な地域個体群を維持しているかどうかですが、県では毎年、小規模ヘアトラップ調査を実施し、個体数に大きな変動ないようにモニタリングをしながら、捕獲上限を定めているところです。平成24年に県全体の生息数を3400頭として公表したところですが、それから本当に大きな変動がないか気がかりな部分です。

先程の審議会の方で説明がありましたが、平成30年度当初予算の概要の中で、大規模なツキノワグマの生息数調査を実施するということで予算をとっております。来年度以降３ヶ年をかけて、県内のツキノワグマの生息数が前回と比べてどうなっているのか把握していく必要があるのだろうと思います。小規模なヘアトラップ調査では動向でしか得られないところもありますので、もう一度大規模ヘアトラップ調査をやりながら、３年後に生息数がどうかを確認していきます。

それから春季捕獲の効果でございますが、まだ実際の効果的には検証できていませんが、伝統猟法の継続ということでやっておりますので、その部分は効果が出てきているかと思います。春季捕獲をすることで全体としての抑制効果があるのかという点はまだわかりません。

○青井委員

若干捕捉しますと、前倒しによってクマの学習効果を高めるというのはその通りですが、も

う一つは、夏に有害として駆除したクマというのは、いわゆる資源としての価値が低いわけです。一方で、秋以降、山の中で獲ったクマは毛皮も良いですし、ハンターの捕獲意欲が高まり、山に入って捕獲をする人が少しでも増えるのではないかという期待もあります。

春季捕獲についてですが、伝統的な猟法を守るというのは最も大きな名目ですけれども、春から山でハンターに追われるクマが増えるということは、抑止効果につながるのではないかと考えていますが、中々すぐに証明はできないところであります。と言いますのも、岩手県では西和賀町と八幡平市で春季捕獲を実施しているところですが、非常に行動範囲が広いものですから、秋田に行ってしまったり、他の市町村に行ってしまったりと、その市町村で春季捕獲をしたからと言って、その市町村だけクマが出てこなくなるということは中々証明しにくいところであります。可能であれば、もっと広域でできれば良いのではないかと思いますが、そのような意見は、ツキノワグマの管理検討委員会の中でも話しております。

○渋谷委員

岩手県でクマの狩猟期間を早めた結果、隣接する県へ移動してしまうということはあるのでしょうか。青森県や秋田県等も含めて広域的に調整をする必要があると思いますが、そのような調整はされているのでしょうか。

○事務局

北奥羽地域個体群が秋田県と隣接しているため、秋田県と情報を共有しながら進めているところです。秋田県では、昨年事故が起きたこともあり、多くのクマが捕獲されているところですが、山の中のクマを捕獲しているのではなく、人里への出没が多くなっているため、捕獲数が増えている状況であると聞いております。

また、岩手県に県外から狩猟者登録をする方は、秋田県や青森県の狩猟者が多いのですが、秋田県の狩猟者にはクマを狙いに来ている方も多いと聞いております。岩手県が狩猟期間を延長すると狩猟者が増えることも予想されるので、狩猟期間の延長を始める前に、県内や隣接県の方にも十分に周知していきたいと考えております。

○青井委員

同じ地域個体群のクマなので、秋田県と岩手県の両方が同じ管理方式で進めていく必要があると思うので、今後はそのようなすり合わせを進めていっていただきたいと思います。

○事務局

秋田県と担当レベルで話したところ、秋田県は平成29年から３年間でカメラトラップ調査を行い、個体数推定をしていくとのことです。

岩手県とは調査方法が異なりますが、秋田県が調査の後にどうするかということもありますので、４年後以降、どのように進めていくか調整しながら考えていきたいと思います。

○渋谷委員

今の話ですと、岩手県が先行する形になりますので、他県からハンターが来て一時的に狩猟圧が上がるということもあり得ると思います。

また、安全管理など色々な面で対応が必要になりますので、本来は一斉に同じような段取りで進めていくことが必要かと思いますので、連絡会議等を密に行って進めていってほしいと思います。

○松坂委員

捕獲数についてですが、平成24年で350頭、平成26年で376頭、ところが平成29年は278頭となっており、その下の表の出没件数を見ますと、平成24年は2,369頭、平成26年は2,221頭、ところが平成29年は捕獲数が少ないのに目撃件数は2,561頭となっており、平成24年、平成26年より多くなっています。これはクマが里に降りてくるようになったなど、状況が変わってきているということでしょうか。

○事務局

この出没情報は、住民から市町村に寄せられた目撃情報を集計したものですが、３件同じような目撃情報があった場合は１件と数えるのか、３件とも別のものとして数えるのか、集計方法は市町村ごとに異なっている状況ですので、件数が増えたからと言って、状況が変わったとは一概には言えないと思います。

また、昨年度は秋田県において死亡事故が発生し、岩手県においてもクマの出没が多く、春先に注意報を出したことから、住民のアンテナが高くなり、これまではしていなかった報告をするようになったなど、住民の意識が変わってきているような状況もあるのだと思います。

○菅野委員

秋田県のクマの死亡事故があったことから、今までクマを見かけても報告してこなかった

方が報告するようになったため、件数が増えてきたのだと思います。

狩猟期間の延長については、冒頭にも話がありましたが、人間慣れしたクマが多くなってきていると感じます。人間の怖さを知らないということですが、北上山地付近だと12月末まで冬眠しないクマもいますが、奥羽山系のクマは11月末には冬眠に入ります。したがって、狩猟が始まったころには冬眠しているため、そこで人に追われたことのない、人の怖さを知らないクマが人里に降りてきて事故を起こすのではないかと思います。

クマが冬眠する前にハンターが山に入ることで、人間の大きな声を聞いたり、銃声を聞くなりして、クマが人の怖さを学習するのではないかと思います。この期間中にたくさん捕獲をしたいのではなく、学習させたいという意味で、狩猟期間の延長に賛成します。

先程、秋田県と岩手県で生息頭数のやり方が違うとの話があり、秋田県のクマの推定生息数は1,000頭、岩手県は3,400頭となっていますが、秋田県はあのような事件が起き、クマと人間社会との距離が近いように感じます。

しっかりと調査をすれば、岩手県とそう変わらない頭数になるのだと思いますが、すり合わせをしながら、同じ目線で見ていけば、狩猟期間の延長についても前向きに検討するとなるかもしれないので、調整してほしいと思います。

○渋谷委員

資料によると１月から３月にも出没が見られているようですが、今のお話ですと、北上山地のクマが冬眠していないということもあるのでしょうか。

○菅野委員

たまに１月中頃にクマの足跡を見かけることもあります。巣穴を持たず寝なかったクマもいるかと思いますが、あくまでも推測ですが、冬眠に入る前にある程度の食料が得られないと冬眠できないのではないかと考えています。

○青井委員

実は北海道のヒグマでも最近は冬眠しないものがいて、2月頃はエゾシカを食料にしているようです。クマ牧場では冬眠しないように冬に給餌しているので、野生のクマも食べるものがあると冬眠しないです。餌がないことに対する備えとして冬眠という行動をとるということです。今はシカがものすごく増えて、死体が山にあったり、割と安直に冬でも食物が得られるような状況があるため、中には冬眠しないクマが岩手県でも出てきている可能性がある

かと思います。

〇青井委員

その他、何かありますでしょうか。

それでは、今回は諮問ではなく報告に対して意見を求めるということでしたので、これで議事を終わりたいと思います。